

令和6年 第1回 総合教育会議 会議録

開催日 令和6年9月5日(木)

場 所 武豊町役場 全員協議会室

出席者氏名

町 長	靱山 芳輝			
教 育 長	榊原 寛二			
教育長職務代理者	堤田 綾子	委 員		浅野俊太郎
委 員	小藤 省吾	委 員		鋤柄佐千子
総 務 部 長	池田 武彦	企 画 部 長		磯部 好文
企画部次長兼企画政策課長	森田 良孝	教 育 部 長		近藤 昭子
学 校 教 育 課 長	森田 光一	生涯学習スポーツ課長兼中央公民館長		横田 覚
町民会館事務長	長谷川貴彦	学校教育課課長補佐		小坂井絵美
学校教育指導主事	神谷 俊輔	学校教育指導主事		小田島 健

：欠席者

1. 開会 午後3時00分

(教育部長)

皆様、こんにちは。本日はご多用の中、ご出席をいただき厚くお礼申し上げます。定刻になりましたので、只今から令和6年度第1回総合教育会議を始めます。

本日の会議につきましては、議事録を作成するため、録音をいたします。議事録につきましては、後日町ホームページにて公表しますのでご了解ください。また、本日の進行につきましては、お手元の次第に沿って進めますので、よろしくお願いいたします。

2. あいさつ

(教育部長)

それでは、靱山町長よりごあいさつをお願いします。

(町 長)

皆さんこんにちは。武豊町長の靱山芳輝です。日頃は武豊町の教育の充実に向け、お力添えをいただき大変感謝申し上げます。また、本日は、ご多用の中、令和6年度第1回総合教育会議にご出席いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、昨年度より新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類相当へと変更になり、コロナ禍では自粛をしていた様々な事業が実施できるようになりました。先日は、武豊町立中学校の生徒36名が、5年ぶりにオーストラリアへの海外派遣事業として、現地学校の訪問とホームステイを行い、無事に帰国しました。私も教育長とともにオーストラリアへ初めて赴き、ケアンズ市の副市長さんとセントザビア校の校長先生へ武豊町のマスコットキャラクター「みそたろう」のぬいぐるみを届けるとともに、武豊町の生徒受け入れのお礼と、今後も未永く交流が続くように、願いをして参りました。子どもたちも、こういった生の体験を通じて、これ以上ない学習をすることができたのではないかと思います。10月3日の帰国報告会を大変楽しみにしている所であります。

また、昨年度には町内の6小中学校の体育館や特別教室へ、空調設備の一斉設置を行いました。今年の夏も猛暑であり、まだまだ暑い日が続いておりますが、子どもたちは常に快適に過ごし、授業を受けられるとともに、熱中症警戒アラート発表時でも、体育

館にて運動ができるようになっていきます。

武豊町としましては、子どもたちの健やかな学びのために、様々な環境整備を通して、学校教育を支えてまいりたいと考えております。

本日は、「武豊町の児童生徒の現状」、「スクールソーシャルワーカー・教育支援センター指導員の活動実績」、「いじめ重大事態」、「教職員の働き方改革」について報告があります。ご参会のみなさまには、それぞれのご専門の立場から多くのご意見をいただきますようお願いいたします。私からのあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

(教育部長)

次に、榊原寛二教育長よりあいさつをいただきます。

(教育長)

みなさまこんにちは。教育長の榊原寛二でございます。ご多用のところご出席をいただきありがとうございます。町内の小中学校では、2学期が始まり、各校とも順調にスタートさせました。2学期は運動会や文化祭など、行事の多い学期です。行事を通して、子どもたちには、協力することや努力することの大切さを感じ取ってもらえたらと願っております。

さて、私からは、2点のトピックを紹介し、お礼を申し上げたいと思います。1点目です。今年の夏は大変暑い夏が続いておりますが、本町では、昨年度、特別教室と体育館にエアコンを設置していただきましたので、屋内での活動は子どもたちが安全安心で楽しく活動ができています。ここで、知多地区の小中学校におけるエアコンの設置状況の最新の調査結果をご紹介します。知多地区において体育館にエアコンが設置されている学校は、小学校 78 校のうち 15 校。うち 4 校が武豊町です。小学校での設置の割合は 19%です。中学校では 34 校中 12 校。うち 2 校が武豊町です。体育館での設置の割合は 35%です。今年、体育館と特別教室にエアコンが設置されて始めて迎えるこの暑い夏ですので、エアコンの有り難さを子どもたちはもちろん、教職員も大いに感じているところです。ありがとうございました。

2点目です。5年ぶりのオーストラリア派遣事業では 36 名もの生徒を派遣していただき、ありがとうございました。町長さん、企画部長さんには、2泊4日の強行日程でしたが、ザビア校での歓迎の様子もご覧になられたことと思います。5泊7日の日程を終えて、中央公民館に帰ってきた生徒は、どの子どもとても楽しかった様子で、ある生徒に感想を聞いたところ、その生徒は笑顔で「なんも言えねえ」と答えてくれました。10月3日に予定しております帰国報告会で生徒一人一人がどんな感想を話してくれるのか、報告書にどんなことを書いてくれるのか、とても楽しみです。

時間の都合上、2点のみの報告となってしまう申し訳ございませんが、改めて、町長さんをはじめとした幹部の皆様には教育条件の整備への格別なるご配慮に深く感謝申し上げます。最後になりますが、本日の総合教育会議では4点の協議事項について、町長さんや行政の幹部の方々と懇談を深め、今後の教育行政へのご示唆をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(教育部長)

本会議の出席者の確認につきましては、次第裏面にございます出席者名簿をもって代えさせていただきますので、ご了承ください。

3. 報告事項

(教育部長)

それでは、「報告事項」に移ります。「武豊町の児童生徒の現状について」、事務局からお願いします。

(指導主事)

私からは、今年度の全国学力・学習状況調査の結果からみた、本町の教育に関する児童生徒の傾向と課題について報告いたします。

最初に、学力調査の結果です。本年度学力調査の対象となった教科は、小学校が国語と算数、中学校が国語、数学となっております。

小学校では両教科とも全国・県平均よりも正答率は低くなっています。中学校では、数学の正答率が全国平均よりやや高くなっているものの、県平均よりは低くなっております。国語については全国・県平均よりも低くなっていますが、ほぼ同等の結果となっております。問題形式別に正答率を見ると、小中学校ともに記述式の問題について、平均よりも正答率が低くなる傾向にあります。

また同じく記述式の問題で無回答の割合が高くなる傾向にあります。基礎・基本の確実な定着を図り、難しいと感じる問題にもあきらめず、粘り強い取り組みができるように指導するとともに、今回の該当教科だけではなく、さまざまな教科で自分の考えをまとめ、記述する力を高める活動を行うことができるように、授業アイデア例等を活用し、授業改善すすめてまいります。

次に、児童生徒の学習環境や生活習慣について調査した結果です。

小学校の児童は、朝食を食べることや、就寝、起床時間について、全国や県とほぼ同じ水準となっており、各家庭において、しっかりと生活習慣が身に付いている様子がわかります。一方で、朝食が取れていない児童の割合が増えたり、不登校などで規則正しい生活が送れていない児童もいたりします。その児童に対しては、学校の教職員だけでなくスクールソーシャルワーカーやスクールサポーターなどが協力して家庭訪問を行うなど、今後も対応を進めていく必要があります。

中学校の調査で、自分によいところがあると答えた生徒の割合は、全国や県との比較でも同程度の水準でした。教員が生徒一人一人の特性を理解し、自己肯定感や自己有用感を味わえるように、支援や指導に取り組んでまいります。

タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、小学校では、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる割合は、全国や県とほぼ同じ水準となっています。中学校では、タブレットなどの ICT 機器を週3回以上使用している割合が、全国や県よりも高く、文房具の一部として必要な時に使うことができる環境になっている。今後も、ICT 機器の活用を含め、児童・生徒の関心を高めるとともに、「できた」「わかった」と感じさせられる授業を行えるよう、町内各学校の取り組みを共有し、授業力の向上が図れるようにしていきたいと思っております。

(学校教育課 課長補佐)

続きまして、令和6年度中学校の部活動の成果について、ご報告させていただきます。資料をご覧ください。こちらは7月から8月にかけて行われました、知多地方体育大会（郡大会）等における結果であります。武豊中学校の陸上部男子におきましては、全国大会出場を果たし、陸上部女子、新体操部男子におきましては、東海大会出場の結果を残しております。富貴中学校の卓球部女子におきましては、全国大会出場を果たしてお

ります。結果の詳細につきましては、のちほどご覧ください。

顧問の先生方の熱心な指導と子ども達の日々の練習の結果として、優秀な成績を残しております。今後も引き続き、子ども達の活躍を期待したいと思っております。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします

(教育部長)

ご意見無いようですので、次に進みます。「スクールソーシャルワーカー・校内教育支援センター指導員の活動実績」について、事務局からお願いします。

(指導主事)

スクールソーシャルワーカー（以下 SSW）と校内教育支援センター指導員の活動実績について報告いたします。武豊町では、令和元年度より SSW を導入しています。令和4年度からは、SSW を1名増員し、2名体制で支援を行っています。SSW が2名になったことで、週1日は必ず各校を訪問する機会を確保できるようになりました。2名の SSW それぞれが、武豊中、富貴中の中学校区ごと、小2校、中1校を担当し、子どもたちの支援に当たっています。令和5年度に SSW が支援をした児童生徒数は、小学校で147人、中学校で73人でした。そのうち、昨年度からの継続者数は、それぞれ76人と49人となり、半数以上に継続して支援にあたっています。週に1度必ず学校を訪問することによって、継続して支援をしている児童生徒と関わる時間を確保することができています。また、各学校の教職員からの相談も増えており、家庭訪問や面談を実施するケースも多くあります。家庭訪問や面談では、児童生徒や保護者との信頼関係を築いており、SSW が家庭と学校をつなぐことで、好転したケースも多い。早期・予防的に関わるができるようになり、学校以外の関係機関と連携し、児童生徒だけでなく保護者を社会資源につなげることができています。

続いて校内教育支援センター指導員についてです。教育支援センター指導員は、登校はできるがなかなか教室に入ることができない児童生徒に対して、教室とは別のスペースを使って対応しています。昨年度から、指導員を1名増員し、小学校を巡回する指導員が2名となったため、本年度も、富貴小学校では平日午前中5日間、指導員による校内教育支援センターの開設が可能となり、学校から感謝の声が聞こえてきております。緑丘小学校や衣浦小学校でも校内教育支援センターを開設する体制を年度当初からとることができました。小学校は、校内教育支援センターの利用を希望する児童が少ない状況ではあったものの、担任をもたないそういった児童への対応が可能な教員の数が少なく、開設するのは、学校にとって大きな負担となっていました。指導員が2名になったことで、その負担が解消されています。

不登校児童生徒数は、武豊町だけでなく全国的にも増加傾向です。今後も、SSW、校内教育支援センター指導員ともに、不登校の児童生徒に対応するため、登校のきっかけづくりや、不登校の子どもたちの学校における居場所づくり等を通して、教職員と協力して子どもたちへの支援を行っていきます。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

(教育部長)

ないようですので、次に「いじめ重大事態の報告」について、事務局からお願いします。

(指導主事)

いじめ重大事態について令和5年度の武豊町教育委員会としての対応について報告いたします。本日出席の皆様にはご存じの通り、いじめ重大事態の調査について、既に報告書を武豊町ホームページに掲載し、公開しております。

武豊町教育委員会の対応について、『いじめ重大事態の取り扱い決定から調査報告までの経緯』として時系列にまとめました。令和5年5月16日のいじめ重大事態取り扱い決定以降、教育委員、町長、そして文部科学省へ、ガイドラインに基づいて適宜報告をしながら、いじめ問題対策委員会を開催し調査を進めました。調査終了後は、報告書をもとに関係保護者への説明を行い、令和6年3月25日の武豊町長への報告をもって、本案に対する調査を終了しております。

これらの対応を行う際には、様々な段階において県のスクールロイヤーや武豊町の顧問弁護士から、法律的な見地に基づいた助言を頂き、対応を進めました。

また、令和6年度に入ってから、町の校長会にていじめ重大事態の報告と再発防止に向けた取組の確認を、町教頭会にて全職員に向けて事例、学校の対応、再発防止策の共有を依頼しております。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

(教育部長)

ないようですので、次に「教職員の働き方改革」について、事務局からお願いします。

(指導主事)

武豊町教職員の多忙化解消プランは、愛知県教育委員会、教員の多忙化解消プロジェクトチームによる、教員の多忙化解消に向けて、より実効性のある対策に着手するよう強く求める提言を受けて、令和4年4月に作成されたものです。武豊町教育委員会では、プラン作成後も策定委員会を年2回実施し、多忙化解消に向けた取組が進められるように改訂を進めてきました。令和4年以降の変更点としては、Web アプリを用いた欠席連絡システムの導入や、それに伴う勤務時間外における電話の自動音声対応時間の拡大、総授業時間数の見直しをもとにした、学期当初の半日日程、短縮授業の実施などが挙げられます。

また、中学校の部活動についてもガイドラインを見直し、生徒の希望入部制、朝活動の原則なし、休日活動の回数を減らすことなどを盛り込んでいます。今後部活動の地域移行を進める中で、武豊町では令和7年9月から、休日の部活動は原則行わず、生徒へは活動の場として地域クラブ活動を紹介していく計画です。

このように教育委員会、学校現場では教員の多忙化解消が進められるよう様々な方策を考えておりますが、一方で教員の成り手が絶対的に足りていない現状もあります。武豊町でも、令和6年度教員の数に足りず欠員の状態でスタートした学校や、年度途中で様々な理由で教員がお休みをされた際、後任が見つからず、補充が充てられないままの学校が複数あり、何とか在籍している教員で学校教育活動を運営している状況です。そ

んな中で、武豊町が会計年度任用職員を任用し、多くの人手によって学校教育を支援していただいていることは非常にありがたいことです。特に学校のニーズに応じて手厚い人的配置をしていただいております、学校現場からも感謝の声を多く聞いています。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

(教育部長)

特にないようですので、これで報告事項を終わります。

4. 意見交換

(教育部長)

続きまして、本来であれば協議事項に移りますが、今回、協議事項はありませんので、そのまま意見交換を行います。

(教育委員)

教育長あいさつの中で、体育館エアコン設置に関する知多管内の具体的な現状を聞いて、武豊町が、前向きに教育環境整備に力を入れていることを改めて実感しました。本当にありがたい事だと思っています。毎年教育委員は、学校の予算や環境整備に関する要望を聞く機会があります。長年そういった会に参加する中で、気づいたことがありますので、そのことをお話しさせていただきます。

要望としてよく聞くこととして、例えば学校の運動場にあるトイレが、使用するのにためらうほど老朽化しているということや、最近では放送設備も老朽化しており、全校放送時にノイズが発生するなど、今にも壊れそうだとすることがあります。確かに、学校の環境整備という観点で言えば、こういった老朽化への対応は、学校教育課の予算の中で行うという考えになろうかと思えます。しかしながら、別の視点で考えると、学校はほとんどの場合避難所となっているはずですが、今年1月には、能登半島で大きな地震がありました。また、先日の宮崎の地震では、その後1週間程度南海トラフ地震の発生確率が高まっており、注意が必要であるという報道もされていきました。住民の皆さんも、震災やその被害について関心をもっている状況であり、多くの方は被災した場合は学校への避難を予定していることでしょうか。であれば、学校環境の老朽化は、そこに通う児童生徒や教職員だけの問題ではなく、地域住民にとっても大きな問題であるはずですが、災害が発生して避難した際に、使用するトイレが使いづらい状態であったり、校内放送が故障していて、大切な情報が必要な人に向けて届けられなかったりすれば、そこに避難してきた人たちにとって、大きなストレスとなると予想されます。今学校に通っている子どもたちのための整備と考えた際、使用頻度の低い外トイレの整備は後回しにせざるを得ないかもしれません。しかし、避難所となることを考えれば優先的に行う必要があるでしょう。学校環境の整備について、防災等別の視点から、学校教育課以外の課が予算を考え執行するという発想があってもよいのではないかと考えます。

震災があった後のテレビのニュースでは、学校の体育館だけでなく、運動場や校舎で避難生活を送っている様子を見かけます。学校環境の整備＝震災時の生活拠点の整備と考えていただけるとありがたいと思います。

(総務部長)

本日は町の財政状況と教育費、特に学校関係の予算および執行状況につきまして、お話しさせていただきます。

まず始めに、令和5年度一般会計決算についてです、9月2日から、9月定例議会が始まっており、審議頂いているところですが、令和5年度の歳入決算額は、概算額で、約185億円、となりました。令和5年度は、JERA武豊火力発電所の稼働により、主に償却資産分の固定資産税が増加したこともあり、昨年度より25.8%、38億円ほど増加しました。そして、歳出決算額は約176億円であります。この内、教育費は約29億円の決算額となっております。教育費の決算の中で、令和5年度の小中学校に関わる特徴的な事業としましては、特別教室並びに屋内運動場等 空調設備 設置工事を実施しました。額にして約9億円となっております。

続きまして、令和6年度予算について、概算額で申し上げます。令和6年度一般会計予算額は、約183億円であります。令和5年度に引き続き大型の予算となっております。歳入の根幹をなす町税は約112億円で、歳入全体に占める割合は、約61.1%であります。本年度もJERA武豊火力発電所の、償却資産分の固定資産税が大きな税収となっております。またこの事によりまして、本町は昨年度に引き続き、普通交付税の不交付団体となっております。これは、国からの交付税を貰わなくても、自分のところの収入だけで、やっていける団体ということになります。参考までに、令和6年度では愛知県下54市町村のうち、不交付団体は19団体、全国（特別区は含まない）では1718市町村のうち不交付団体は82団体となっております。

次に歳出予算では、教育費は民生費に次いで2番目の予算額の約29億円で、令和5年度と同規模になっております。教育費の予算の中で、令和6年度の学校関係の特徴的な事業の一つは、学校給食センターの実施設計業務であります。令和8年9月の供用開始を目指し、準備を進めて参ります。その他、武小のトイレ改修工事を始めとした各種修繕工事、またハード面以外にも、小学校に巡回し、保護者からの相談や特別支援学級の担任等への指導助言を行うため特別支援教育相談員について予算措置させていただきました。

(企画部長)

本日報告がありました、スクールソーシャルワーカーについては、令和6年度武豊町では1名が正規職員、もう1名は会計年度任用職員の2名体制の形で任用しています。両名ともに数多くの案件を抱えており、学校教育課からの要望もあることから、まだ未確定ではありますが、来年度以降は臨時的な任用ではなく正規職員2名体制、おそらく正規職員と任期付職員1名ずつの体制で事業が行えるように、準備を進めている所です。

令和6年は、武豊町制70周年の記念年ということで、昨年はギネスに挑戦するイベントを行いました。今年は該当年であり、より多くの行事が進んでいます。大きなものとしては、7月27日に衣浦港の花火大会がありました。当日は良い天気となり、大勢の方に綺麗な花火を見ていただくことができました。また、念願であったNHKのど自慢に、8月11日に来ていただきました。私も前日の予選から本番当日まで生で見ましたが、参加される人たちが繋がることできる、また見ている側の心をほっとさせる、とても面白い番組でした。様々な市町が呼びたいと考えるのがよくわかると、見ていて思いました。10月6日には、記念式典を町民会館で実施予定です。その翌週には第7回武豊ふれあい山車まつりが行われます。是非お時間がございましたら、足を運んでいただければと思います。

他には、武豊町の公式 LINE をリニューアルしました。これまでの防災関係だけでなく、武豊町役場のあらゆる課から情報を提供できるようになっています。防災情報、子育て情報、イベント案内等、様々な情報をセグメント配信し、受信する側は、簡単な設定をしておけば、希望する情報だけを受け取ることができる仕組みです。また、LINE のメッセージ内のリンクから、町のホームページとつなげることで、詳細な情報を確認していただくことも可能です。よろしければご登録ください。

職員採用につきましては、民間企業と同様に公務員も、昨年度より人手不足が起きています。特に景気が良い時期には、民間企業の方に人材は流れる傾向にありますので、武豊町としては、採用募集の回数を増やしたり、年齢制限を引き上げて社会経験のある即戦力を募集したりするなどの工夫をし、人材の確保に努めている状況です。

(企画政策課長)

私からは、「第6次武豊町総合計画」の後期基本計画の策定に伴い、去る7月1日から7月19日を調査期間として実施しました「中学生意識調査」の速報値について、ご報告をさせていただきます。

本調査に関しましては、武豊中学校及び富貴中学校の1・2年生797人（7月1日現在）を対象とし、WEB方式により回答して頂きました。回答数は766人であり、回答率は96.2%と前回の95.4%から0.8%高い率を得る事が出来ました。調査項目は、「武豊町の住みごこち」をはじめ、14項目について調査をいたしました。前回（令和3年度）と比べ変動のあった主な項目を2点ご紹介させていただきます。

はじめに1点目として、「今後も武豊町で暮らしたいと思いませんか」の設問であります。この設問において、「暮らしたい」と回答した割合は、前回の76.3%から5.5%高い81.8%となっております。理由としての上位では、1位が「住み慣れていて愛着がある」が48.2%、2位が「自然環境が良い」で39.7%、3位が「公共施設が充実している」で38.9%となっております。特に3位の「公共施設が充実している」では、前回の33.4%から5.5%増加しており、「屋内温水プール」及び「武豊中央公園」などが新たにオープンしたことが影響しているのではないかと推測しています。

2点目として、「地域の祭りや行事などを楽しみにしていますか」の設問であります。この設問において、「楽しみにしている」と回答した割合は、前回の79.7%から2.9%高い82.6%となっております。地域への愛着が増しているのと、コロナ禍により、地域の祭りや様々な行事が行えなかった期間があり、その反動も影響しているものと推測しています。

以上、2点のみのご紹介をさせていただきましたが、全14問の速報値を見ますと、総じて、子ども達からは、「武豊町は住みやすく」、「大変好きなまち」であるということがわかりました。この結果につきましては、現在策定中の「第6次武豊町総合計画」の後期基本計画に反映し、皆様方にも公表していく予定であります。

(教育部長)

貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

5. その他

(教育部長)

それでは、その他について、事務局お願いします。

(指導主事)

事務局より、2点連絡をさせていただきます。

1点目は、会の始めにもありましたが、本日の協議については、議事録を作成しホームページにて公表させていただきますので、ご承知おきください。

2点目です。次回は、令和7年2月6日午後3時から、全員協議会室での開催を予定しています。連絡は以上です。よろしくお願いいたします。

(教育部長)

その他、みなさまから何かございますか。

(教育部長)

無いようですので、これもちまして、令和6年度第1回武豊町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。